

「ぶんぶんひろば」における授業の実践
「保育内容（造形表現）」
 （学芸学部 子ども学科）

「保育内容・造形表現」での「シール貼り」

●授業の概要と目的

本学学芸学部における「保育内容（造形表現）」は幼稚園教諭一種免許状もしくは保育士資格取得のための選択必修科目で、主に学芸学部子ども学科の2年生が履修する。子ども学科の学生の多くは2年生の秋に初めての實習である2週間の幼稚園實習を経験する。本授業は實習を目前とした2年前期に開講される科目であり、「造形活動を通じた乳幼児理解」をその修学目標のひとつに掲げている。そのため、毎年授業計画の中に「乳幼児および保護者と関わる実践」を取り入れている。その実践内容として、子ども・子育て支援研究センターでの「シール貼り」と、近隣の幼児教育施設「ふれいすくーる・ちゅーりっぷ」の協力を得て行う「造形まつり」が挙げられる。

2013年度のこの科目の履修者はグループA20名（男子6名女子14名）、グループB31名（男子17名、女子14名）の計51名であった。そのうち、授業への出席状況や態度、提出物などに問題があり、参加が認められなかった学生10名を除く41名が子ども・子育て支援研究センターでの実践を行った。2013年は7月2日（火）3限目、7月5日（金）3限目、7月9日（火）2&3限目、7月19日（金）の4日間、6回に分けて「シール貼り」の実践を行った。

●「シール貼り」という活動

子ども・子育て支援研究センターの「ぶんぶんひろば」は主に幼稚園入園前の0～3歳の保護者と乳幼児が利用している。そのため、活動内容もその年齢に合わせたものが望ましい。おおむね1歳3ヶ月～2歳未満の発達として、「歩き始め、手を使い、言葉を話すようになることにより、身近な人や身の回りの物に自発的に働きかけていく。歩く、押す、つまむ、めくるなど様々な運動機能の発達や新しい行動の獲得により、環境に働きかける意欲を一層高める。その中で、物をやり取りしたり、取り合ったりする姿が見られるとと

もに、玩具等を実物に見立てるなどの象徴機能が発達し、人や物との関わりが強くなる。」ということが挙げられる。

これらの「つまむ、めくるなどの運動機能の発達」や「環境に働きかける意欲」、「みたて活動」、「人や物への関心」を育てる活動の一つとして、多くの保育園で0歳児クラスから実践されている「シール貼り」という活動がある。具体的には、赤や青などの円形のシール（直径1.5cm～3cm）を保育士が用意した型紙の上に貼ることにより、乳幼児は何かしらのイメージを作り上げて（仕上げて）いく活動である。本授業では、毎年この「シール貼り」について学習した上で、乳幼児を対象に実践することを授業計画に入れている。

●事前学習・準備

学生たちは事前学習・準備として以下のようなプリント課題を行う。

保育内容（造形表現）
 F. Ogasawara 2012. 6. 11
 学生番号 名前

「子ども・子育て支援研究センター」にやってくるちびっちゃん&その保護者さんたちと「造形あそび」を行います。子ども・子育て支援研究センターにやってくる子ども達は3歳以下（幼稚園入学前）の子ども達がほとんどで、中には0歳児や1歳児さんもいます。どんな活動ができるでしょうか？

今回は3歳以下の小さい子どもが楽しめる活動「部屋が汚れず、気軽にできる活動」ということで、「シール貼り」を行います。各自、子どもたちがシールを貼って行く「台紙」を用意します。（色画用紙を使用し、切り貼りで作る。ひとり2枚+完成見本）

遊び シール貼り

対象とする年齢 0～3歳

その年齢の子どもの姿

あそびのねらい・伸ばしたい能力

図1 プリントNo. 1 「その年齢の子どもの姿」「あそびのねらい・伸ばしたい能力」について調べて記入する。

○その年齢の子どもの姿

0歳・保護者・保育者に見守られて、玩具や身の回りのものに触れ、遊びを楽しむことができる

1歳・手先・指をつかうことができる。何でも自分でやろうとする

2歳・全身を使う動きを好み、手や指もより細かく使えるようになる。全身や手指の能力を駆使する遊びを好む

3歳・おしゃべりが好きになる。基本的な生活習慣がほぼ自分で出来る。

○あそびのねらい・伸ばしたい能力

あそびのねらい

▶つくりあげる過程を楽しむ ▶模様を工夫して楽しむ ▶物を作る楽しみを知る

▶「シールを貼る」動作を楽しむ

伸ばしたい能力

▶手指を動かす力 ▶工夫すること ▶創造性 ▶自分のイメージを表現する力

図2 プリントNo. 1 記入例 (女子学生N. M)



写真1：導入の手遊びをする男子学生 (2013年7月9日 2限目)

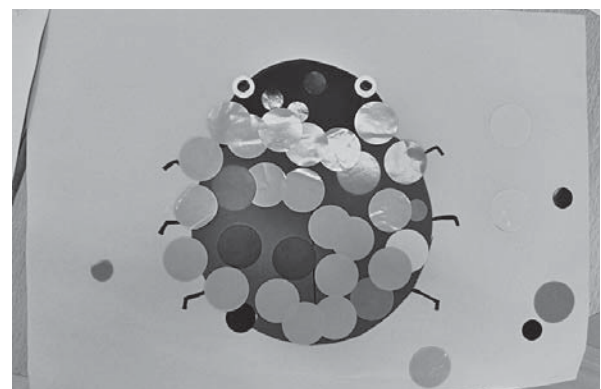


写真2：たくさんのシールが貼られた「てんとう虫」

活動の流れ	注意事項 制作時の注意事項 子どもと関わるときの注意事項
①遊びの説明 ②台紙選び ③学生は子どもに付き、一緒に活動をする。 ④保護者へのインタビューをする。	アクセサリーを身に付けない 長い髪の方は結ぶ 学生同士で私語をしない 自分から積極的に子どもたちに関わるようにする 笑顔であいさつ
○保護者へのインタビュー ▶子育てについて ・子育てをしていて一番嬉しかったことは何ですか？ ・一番大変だったことは？ ・出産の時、痛かったですか？ ・この大学の子育て支援センターを利用するようになったきっかけは？	言葉使いに気をつける 保護者の目をみて話す あまり個人的な内容について詳しく聞かない 学生同士で私語をしない 挨拶をしっかりする 笑顔

図3 プリントNo. 2 学生 (女子・N. M) が記入したもの



写真3：出来上がったシール貼りを掲げる女兒。

●まとめ

学生たちの多くは、乳幼児と関わる経験が極めて少なく、年齢に応じた子どもの「できる・できない」を理解していない。実際に子どもや保護者と活動を共にすることで、実感的に子ども理解を深めることができる。この実践活動を通して、学生たちが学ぶことは多く、今後も積極的に取り入れていきたい活動である。

(文責：学芸学部 子ども学科 小笠原 文)